

# 朝和

國のまほろば

## 「朝和」の由来

**明** 治21年に全国で市町村が整理され、この地域では15の村が一つになって「朝和」村ができました。

朝和の「朝」は、昔、佐保庄町に朝日神社と朝日観音が祀られていて、そのあたりを「アサヒ」と呼んでおり、さらに毎朝、龍王山から昇る朝日に健やかな一日を願う気持ちから、朝日の「朝」をとりました。

朝和の「和」は、崇神天皇のころより国土の守り神が祀られている大和神社からとりました。「和」には「すべての人が仲良く、和やかに」という思いがあります。

現在、朝日神社は大和神社に移されていますが、朝日観音は今も佐保庄町にお祀りされています。

## 大和神社



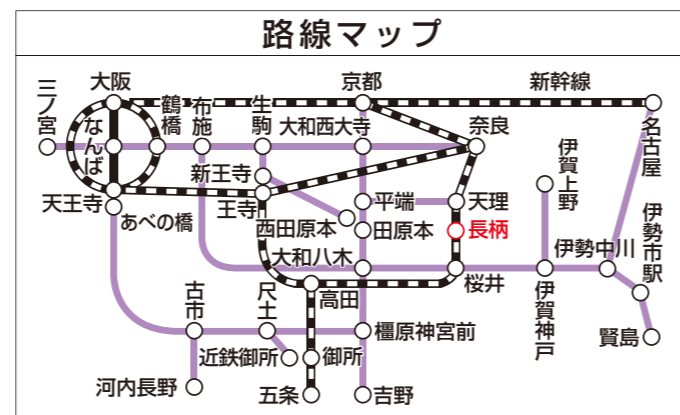
**大** 和神社には、日本大國魂大神・八千戈大神・御年大神がご祭神として祀られています。

かつて、日本大國魂大神と天照大神は宮中に一緒に祀られていましたが、神威をおそれた崇神天皇は、二人の皇女に託し宮中の外にお祀りしました。この時、天照大神をお祀りしたのが伊勢神宮、日本大國魂大神をお祀りしたのが大和神社の始まりです。

その後、祭祀を任されたのが海人族を祖とする大倭直であったため、大國魂大神は航海の神としても力をお持ちになりました。このことから、奈良時代には、海を渡る遣唐使たちが大和神社へ参詣し、航海安全を祈願したそうです。

境内には山上憶良による遣唐使の航海安全祈願の万葉歌碑(好去好來の歌)があります。

また、戦時中には、かの有名な戦艦大和にこの神社の分霊が祀られました。



### 協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、マップづくりを行っています。平成27年度は次の地区で作成しました。

### 朝和 (天理市)

- このマップは「朝和マップ推進委員会」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(事務局:奈良県地域デザイン推進課)」が協働で作成しました。
- 平成28年(2016年)3月発行
- 問い合わせ先:  
朝和マップ推進委員会 TEL 0743-66-0001(朝和公民館)  
奈良県地域デザイン推進課 TEL 0742-27-5433

## 周辺広域案内



※道中歌の赤色の文字は朝和地区の地名です。

道中双六 (抜粋)

ぼっそり出たのが柳本  
腰は細そり柳腰  
市場で恋しや蓮の池  
岸田の岸に腰かけて  
寺でなうても成願寺  
萱生は良いと蜜相どこ  
娘やりたや婿欲しや  
お手々を合せて拝むとこ  
あし殿御は馬口山  
一枚二枚や三昧田  
朝日に輝くどじょう汁  
一寸一ぶく福智堂  
三丁下れば御霊の宮  
丹波市場で皆使うて  
五備の小使い持ち乍ら  
それでも心は川原城

※明治10年頃に唄われた柳本から奈良までの道中歌

## ちゃんちゃん祭



**大** 和で古くから「祭り始めは、ちゃんちゃん祭り、祭り納めは、おん祭り」と謡われる大和神社の祭です。4月1日に朝和地区の9町の氏子により、大和神社から大和稚宮神社のお旅所まで、「御渡り」と呼ばれる行列が古式豊かに行われます。先頭が鉦鼓(鐘)を「ちゃん、ちゃん」と鳴らしながら練り歩く姿は、春の風物詩です。

## 紅しで踊り(天理市無形民俗文化財)



**日** 照り続きに困った村の男衆が、白しでを持った雨乞いの踊りを神様に奉納したところ、待望の雨に恵まれました。これがしで踊りの始まりとされています。  
大正時代に一度途絶えてしまいましたが、昭和30年代に地元の有志や婦人会の方々が発見されました。今では「しで」を白色から鮮やかな「紅色」に変え、太鼓・お囃子に合わせて振り上げる姿が大変美しい踊りです。毎年9月23日に大和神社の境内で奉納されます。

## 朝和の民話

**白** 堤神社に伝わる「日本武尊」の話です。  
第十二代景行天皇の皇子である日本武尊が、天皇の命による東征の帰り、伊吹山のあたりで病に倒れ、亡くなられたとき、突然、尊の体から三羽の白い鳥が飛びたち、大和の国の長柄の里に降り立ちました。村人は不思議なことに驚きましたが、たいそう喜び、その場所にお宮を建てて、お祀りしました。

また、言い伝えによると、日本武尊とともに東征したのが、長柄の里の先祖であったとも言われています。日本武尊を祀る神社は、奈良県では白堤神社ただ一社です。



**乙** 木町に伝わる「鹿の足跡」の話です。  
昔々「春日(神)」様が白い鹿に乗って伊勢参りをされた折り、乙木で休憩をされました。春日様は鹿をねぎらい、木陰の冷たい石の上で鹿を休ませたそうです。

昔、乙木には十三歳になると「十三詣り」と言って夜都伎神社にお参りをする風習がありました。ある日、「十三詣り」をしているとき、その石に鹿の足跡がくっきりと浮かんでいるのを見つけた子がいました。その子は幸せな一生を送ったことから、白い鹿の足跡は縁起がいいとされ、「十三詣り」をする子は必ずその石に立ち寄るようになりました。

その石は現在も夜都伎神社から少し東にあります。



## 大和古墳群



**大** 和青垣の山裾に広がる大和古墳群は、越川を北限、岸田川を南限とする朝和地区にあり、中山・萱生支群からなります。  
菅墓古墳に続いて築かれたとされる全長230mの西殿塚古墳をはじめ、平成26年に国の史跡に指定された中山大塚・下池山・ノム古墳など、古墳時代初期の24基からなる大古墳群です。  
墳丘部で柿やみかんが栽培されたり、「ちゃんちゃん祭り」のお旅所であったり、中には現在のお墓が祀られていたり、古墳とそこに暮らす人々の生活が密接につながっているのも朝和ならではの光景です。



大和の祭り始め ちゃんちゃん祭の御渡り

題字：橋本 順子

まちづくりマップ

# 国のまほろば 朝和

## ② 藤の棚 芭蕉

上街道沿いの福知堂に「藤の棚」と呼ばれる場所があり、貞亨5年(1688)大和を訪れた芭蕉が、この地の藤の花を見て詠んだ句『くたびれて宿かろころや藤の花』(笈の小文)の句碑があります。また、幕末の天誅組5名が藤堂藩の家来と出会い、捕えられた地でもあります。



## ① 中村直三碑(1819年～1882年)

中村直三は、朝和村永原出身の農業指導者で、群馬県の船津伝次平、香川県の奈良専二と並び「明治の三老農」の一人。稲の品種改良や綿の改良に努め、農業の発展に活躍されました。大正4年従五位を受け、贈位記念碑が建てられており、奈良公園にも「功德碑」があります。



## ③ 夜都伎神社

かつて乙木村には夜都伎神社と春日神社の二社が並立していました。江戸時代に夜都伎神社(現竹之内の十二神社)と竹之内領の三間塚池とを交換し、春日神社の社名を夜都伎神社に変えました。祭神は春日の四神で、拝殿は珍しい萱葺きの神社建築です。



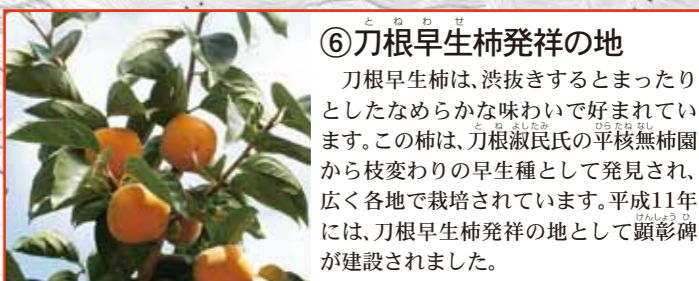
## ④ 環濠集落(竹之内/萱生)

奈良盆地には、数多くの環濠集落がありましたが、これらの中でも、最も高所にある環濠集落として知られています。環濠集落は、中世争乱の頃、外敵の侵入を防ぐために集落の周囲に水濠を巡らせ、濠の内側を竹藪で囲み、入り口には橋をかけ、有事の際には橋を外し、領民を防御したとされています。



## ⑤ 二ノ瀬池からの眺望

奈良盆地全体が見渡せる朝和一押の眺望スポットで、奈良県の「まほろば眺望スポット百選」にも選ばれています。



## ⑥ 刀根早生柿発祥の地

刀根早生柿は、渋抜きするとまったりとしたなめらかな味わいで好まれています。この柿は、刀根淑民氏の平核無柿園から枝変わり早生種として発見され、広く各地で栽培されています。平成11年には、刀根早生柿発祥の地として顕彰碑が建設されました。



## ⑦ 腰痛治しの地藏さん(舟渡地藏)

昔、萱生と竹之内の両村では、毎年「池掘り」をしておりました。あるとき池からお地藏さんが出てきたので、「念仏寺の無縁墓にお祀りしよう」ということになりました。力持ちの若者たちが、地藏さんを運ぶ途中に一休みした後、持ちあげようとしたのが動かすことができず、若者たちは腰を痛めてしまいました。一同は「お地藏さんの怒りに違いない」とここにお祀りをしたところ、不思議なことに腰痛は治りました。以来「腰痛治しの地藏さん」と信仰されています。



## ⑧ 大和稚宮神社/ 歯定神社

大和稚宮神社は、大和神社のちゃんちゃん祭渡御のお旅所で、大和神社と同じ三神が祀られています。毎年4月1日のちゃんちゃん祭には、翁の舞・龍の口の舞が奉納されます。また、この大和稚宮神社に並んで、歯の神様である歯定神社が祀られています。毎年1月15日の祭典では、地元の人がビワの葉に小豆の粥を盛って御供えをします。

## ⑩ 白堤神社

白堤神社のご祭神は日本武尊で白鳥明神とも呼ばれます。以前は現在地の南約200mの南池(白鳥池)の西堤上にありましたが、昭和19年大和海軍航空隊飛行場建設のために移転を余儀なくされ、昭和21年に現在地に社殿を新築して遷されました。元の社地には石碑が建立されています。



## ⑨ 上ツ道(上街道)

上ツ道は、奈良盆地を南北に縦断する古代の官道のひとつで、西から下ツ道、中ツ道、上ツ道が等間隔に整備され、現在も部分的に道として残っています。この上ツ道は、近世においては上街道と呼ばれました。この絵図は、江戸時代の旅行ガイドブックである「大和名所図会」に掲載された大和神社の当時の様子であり、鳥居の前の道が上ツ道で、街道を行き交う人々の姿がうかがえます。



9 上ツ道(上街道)

↑至 天理・奈良

↓至 柳本・桜井



- バス停
- 駐車場
- トイレ
- ビューポイント

